

「NCDGの活動について」 —在日ドイツ大使館 労働・保健担当参事官
Dr. マルティン・ポール氏へのインタビュー（2009年8月17日）

質問： ポールさん、NCDGはドイツ大使館の名の下に、貴方のご支援を頂いております。NCDGは国際的人間育成の活動を行っておりますが、中でも職能の質を高めるための日独交流プログラムを色々実施しています。特に職業分野で日独交流が大切とされる理由を手短にお聞かせください。

Dr. ポール氏： ドイツと日本は色々な面で共通点があります。世界経済のトップに立っていることも共通しています。しかし、この二国間交流プログラムに関心を寄せる方々も、外国語という壁に尻込みをし、取り付きやすそうな国として、ほとんどが英語圏を優先させています。NCDGの日独交流プログラムは、両国の人々がお互いの門戸を開き、また交流によって経験を深めるための助けになっています。特に日本では、「国際的」という言葉を「英語を話すこと」、「アメリカで実践的な仕事をする」と同じ意味で捉えがちですが、日独交流に参加することにより、もっと多様な「国際的」感覚が育まれるのです。

質問： その際、NCDGはどのような役割を果たしていますか？

Dr. ポール氏： NCDGはここ20年来、日独交流プログラムを提供し、常に発展させています。当初、交流プログラムは職人技術のような伝統的職業分野に主に提供されていましたが、今日では、国際マネジメント、エネルギー技術、環境保護などの分野にまで拡大されています。NCDGの全プログラムの要は、滞在に当って参加者が生活準備（言葉、文化生活習慣）を集中的に行える点、また、NCDGの行うセミナー、参加者同士の交流、問題が生じた場合のNCDGのサポートという形でケアを受けることができる点です。

質問： 現在NCDGは職業養成の分野で、職人養成、学生、企業の後継者育成というプログラムを提供しています。各プログラムについての交流の必要性、また日独両国にとっての利点をコメントして頂けますか？

Dr. ポール氏： 「職人養成プログラム」に関しては、企業での職業訓練と職業学校での教育を組み合わせたドイツのデュアル教育システムについて言及しなければなりません。このシステムは日本のプログラム参加者の間に非常な関心を呼んでいます。

「学生プログラム」の重要な点は、若い人を早くから国際的な環境に送り込み、受け入れ国の感性に早く馴染ませることだと私は考えています。

「後継者育成プログラム」ですが、後継者となる人たち、つまり既に職業上の地盤固めを始めた人たちには、視点の違う交流プログラムが必要です。インターンシップは、外国でのネットワーク作りの助けになりますし、個人的なコンタクトを持つことで、例えば一国際企業内での日独のより円滑なコミュニケーションを持つ助けにもなります。

質問： ポールさんは大使館で労働・保健を担当していらっしゃいます。その見地から、現在の日独職業育成交流について、またその可能性についてお話しただけませんか？

Dr. ポール氏： 交流は全ての分野（職人養成、学生、後継者育成、マネジメント）でさらに広がる可能性を持っています。インターンシップも他の交流プログラムも、日独両国が相互に身近なものになるチャンスを提供しています。そしてそこからさらなる国際的経験を積むという選択肢も提供しているのです。

質問： NCDGの全ての交流プログラムに共通することですが、プログラム参加者には事前セミナーが用意され、入国のためのケアが行われます。こういったセミナーがなぜ必要なのか、お考えをお聞かせください。

Dr. ポール氏： グローバルな世界にあっては、専門知識の交換はさることながら、国際的な能力ないしは感情移入の能力といったソフト面での技能が必要になります。入国導入部としてこのソフト面での技能を参加者に準備させるのがセミナーです。このセミナーで、参加者は受け入れ国の文化の背景を理解し、新しい環境と生活に適応しながらも同時にアイデンティティーを保つための術を学ぶのです。つまり、このようなセミナーに参加することによって、受け入れ国での取り組みが非常にしやすくなり、相互理解に役立つのです。

質問： 日独職業交流に望まれることは何でしょう？

Dr. ポール氏： 両国間の交流がさらに拡充し、深まり、常にお互いを尊重し、各分野の交流を深めるために、そして日独の友好関係を密にするために、相互に学び合っていくことです。